

# 長野県革新懇ニュース

2019年5月号  
発行日 5月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 0510-3-15971

240

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 小林君男さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 県革新懇年次総会開催  
読者の声 各種案内
- 4面 「微罪の愉しみ」 窪島誠一郎さん  
映画評論『グリーンブック』内山到さん  
漢字パズル

長野県革新懇

検索



1956年、旧上高井郡東村生まれ。1994年、長野電鉄労働組合教育宣伝部長、1998年、同書記長(～組合専従)、2002年、同執行委員長、連合長野須高地域協議会議長(統合に伴い、現在は高水地域協議会議長)、2003年、須高地区労働者福祉協議会会長

## 市民と野党の共闘の成立が 県議選勝利の最大の要因

小林 君男 さん

(長野県議会議員)

### 共同候補の擁立が 誰も基本認識

Q 今回の県議選での勝因をどのようにお考えですか？

何と言っても市民と野党の共闘がすんだことが最大の要因だと思います。ただ当然のことですが、始めから順調にすすんだわけではなく、さまざまな紆余曲折があったことも事実です。

実は須高地域では、3年前の参議院選挙のときに杉尾さんをぜひ国政に送ろうと、共産党や社民党に「篠原会」も含めた政党などの皆さん、それに連合地連、労組会議、労連の労働3団体、さらに「九条の会」や須高市革新懇などの市民団体、そして統一メーデーの実行委員会組織などで「民主政治をすすめる須高連

絡会」という組織ができました。参議院選挙後一時は休眠状態ではありましたが、昨年の6月頃から県議会の自民党2議席独占をどうしても打破しようとする本格的にこの組織の議論を再開して、県議選での統一候補擁立に向けた検討を重ねてきました。具体的な名前がいろいろ上がり、打診したりしましたが、うまくいかず、12月初めまでに決定することができない状況でした。

そうした中で、夏の参議院選挙をにらんだ共同、市民と野党の共闘を押し進めるためには、誰かが共闘の候補としてしつかり出なくてはいけないという基本認識は誰もが思っていました。タイムリミットが近づきつつある中で、会の役員としての責任や「政治を変えなければいけない」との一念から、最終的に私が立候補する決意を固めたわけです。ただ、その時は、「対立候補を出さないのも共闘の在り方だ」「連合長野の推薦が取れない中では個々の労組に任せ」などと主張する連絡会の役員の方々もおい

でになりましたし、「社民党系ならやるが、共産党系ならやらない」とズバリ言う人もいて、多くの皆さんが後ろ向きでした。野党候補が共倒れした4年前の県議選のしこりもあり、それが尾を引いていて、「おめえの選挙なんかおら協力できないよ」とはつきり言う労組関係の先輩の方々もいらっしやいました。しかし、「色々あったけれども、今は市民と野党の共闘を組まなければ政治を変えられないんだ」と私自身が粘り強く話をしたりしましたし、私の会社の先輩の皆さんがかなり好意をもって受けとめてくれたので、そういう皆さんも説得に動いていただいたようです。最終的には表立った応援はしてもらえませんでした。が、支持の協力はいただいたのではないかと思っております。

### 参議選・衆議選の 共同が底流に

Q 支持はどのように広がったのでしょうか？

12月半ばに立候補の記者会見をして、選挙の具体的な準備に入ったわけですが、その時点では共産党の推薦だけに止まっていた。しかし、3年前の参議院選、その後の衆議院選で培われてきた市民と野党の共闘の実績が底流にあったので、徐々に支持と共闘の輪が広がっていったと思います。たとえば、1回目の全戸配布用のリーフレットには武田良介さんや市民団体の代表の方ももちろんのこと、杉尾秀哉さんと篠原孝さんにも顔写真を掲載していただきました。その後の2回目のリーフレットではこれらの皆さんの顔写真を掲載したリーフレットとともに、1000人の支持者の名前を掲載したチラシ「1000人アピール」を出したりして、徐々に、市民と野党の共同の候補者という認識が地域の中で浸透していったと感じています。

リーフレットの顔写真については、正月を前後して私自身が直接、篠原さんや杉尾さんにお会いして、掲載の了解を得ました。ただ、国民民主党も立憲民主党も政党として

### 尻上がりに広がった 支持と共闘の輪

Q 労組や地域の動きはどうだったでしょうか？

労組関係では、表立っての協力は限定的でしたが、リーフレットのポスティングについては、3月上旬あたりから私鉄労連の支持があり、長野電鉄労組やアルピコ労組から協力をいただき、配布が行われました。また、私自身も

はとも動ける状態ではないとはつきり言われました。信毎で発表された日には、連合長野や県労組会議、社民党にも顔を出して、支援のお願いをしました。連合がきびしいのは当然ですが、社民党や労組会議もその時は態度をほつきりしていただけませんでした。しかし、3月に入り私が長く副委員長を務めていた私鉄バス関係労組の県組織である私鉄県連がまず、政策協定を結び支持を表明し腰を上げてくれたので、県労組会議からも支持していただき、社民党も支援という形をとっていただきました。そして、篠原さんや杉尾さんと小林東一郎県会副議長が個人演説会やさまざまな集いなどにお出で下さり、また武田さんにもしよっちゅう来ていただきました。最終的には新政信州(旧民進党の政治勢力)から私の支持を表明していただき、代表の北澤俊美さんにも個人演説会でご挨拶いただくことができました。選挙終盤では、名実ともに市民と野党の共同候補という形がつけられたと思っております。

地域レベルの支援も広がっていききました。私が住んでいる町は300戸程なんです。それを町では重鎮といわれる方々約10人が30軒ずつ受け持ってくれて、全戸にチラシ配布をしていただきました。また、私の町でも集いをやっただけですが、そこへの出席を頼みたいなことをしてもらって、町だけで70人ぐらいい集まってもらいました。地元の方々の皆さんに大きな盛り上がりを見せていただいたと思います。そして同時に、20年前まで42年間住んでいた生まれ故郷の別の地域の同級生と消防団やPTA活動などを一緒にやらせていただいた皆さんにも、大きな支援の輪を広げていただきました。それらが大きな力になったと思います。

【2面に続く】